

## ■ 概況

11/14~11/20のNYMEX・WTIは、55.21~57.72ドルの範囲で推移した。

11月21日は、12月初めのOPECプラスの閣僚会合で協調減産が2020年6月末まで延長される方向であるとの報道、また、米中貿易協議についても、中国側が第一段階の合意を目指して月内に米国担当閣僚を招いたとの報道があり、さらに、米国の景況指数や中古住宅販売等の好調な経済指標の報告もあり、石油需給の引き締め感が出たことから、大幅続伸した。今日から中心限月に繰り上がった1月限終値は前日比1.57ドル高の58.58ドル。

週末22日は、米中協議に関するトランプ、習近平両首脳の間で相次ぐ慎重な発言、為替市場のドル高・ユーロ安に伴う原油先物の割高感、約2か月ぶりの高値に伴う利食い売りなどから、反落した。なお、ペーカー・ヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は671基で前週比3基減と5週連続で減少した。1月限終値は前日比0.81ドル安の57.77ドル。

週明け25日は、米中貿易協議の第一段階の合意に両国高官から相次いで楽観的発言があり、反発した。米国株値の最高値の更新、12月初旬のOPECプラス会合での減産延長合意の観測も、下支え要因となった。1月限終値は前週末比0.24ドル高の58.01ドル。

26日は、中国商務省が米中協議の進展を認めたこと、翌日発表予定の米国原油在庫が5週ぶりの減少見込みとなったこと、連日の米国株値の最高値更新を背景に、続伸した。1月限終値は前日比0.40ドル高の58.41ドル。

27日は、米国エネルギー情報局(EIA)の原油在庫週報で、原油が前週比160万バレル増と市場予測に反し積み増したこ

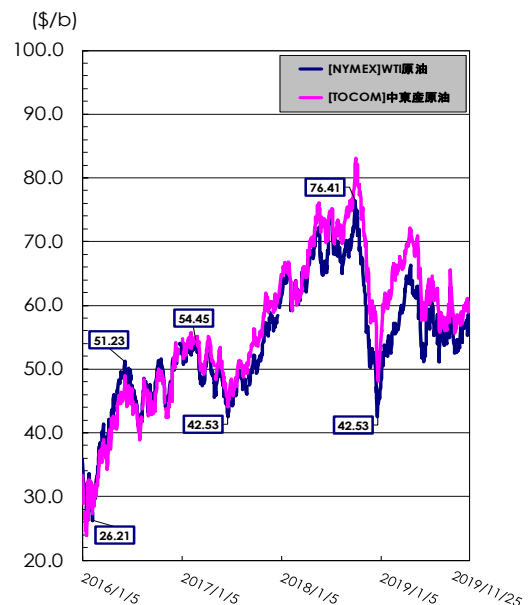
とから、反落した。ただ、米国稼働石油掘削機は668基と前週比3基減と発表された。1月限の終値は前日比0.30ドル安の58.11ドル。

アジアの指標原油である中東産ドバイ原油/東京市場(1月渡し)は11月14日~20日の間60.50~62.70ドルの範囲で推移した。11月21日62.00ドル、22日63.40ドル、25日63.70ドル、26日63.20ドル、27日63.80ドルで推移した。

為替は11月14日~20日の間108.55~108.82円の範囲で推移した。11月21日108.42円、22日108.69円、25日108.81円、26日109.06円、27日109.14円で推移した。

そのような中で、11月25日時点の小売価格は、ガソリンが前週比0.2円の値上がり、軽油は同0.2円の値上がり、灯油は同2円の値上がり(18%ベース)だった。ガソリン・軽油が4週連続の値上がり、灯油は7週ぶりの値上がりだった。この週(11月第4週)の原油コストはわずかに値上がりしたが、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。

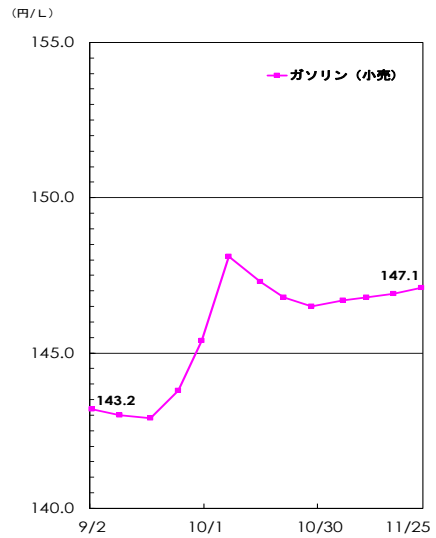
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	11/17 ~ 11/23	3,354 ▲ 4	▼ -
	トッパー稼働率 (%)	"	85.7 ▲ 0.2	▼ -
	原油在庫量 (千kl)	11/23	11,376 ▲ 257	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	11/25	60.50 ▼ -0.61	▲ 2.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	11/25	58.01 ▲ 0.96	▲ 6.4
	原油CIF単価 (\$/bbl)	10月下旬	65.35 ▲ 0.11	▼ -13.84
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	44,356 ▲ 218	▼ -11,878
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	107.91 ▼ -0.36	▲ 4.99
	外国為替TTSレート (¥/\$)	11/25	109.81 ▲ 0.01	▲ 4.23



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/17 ~ 11/23	941 ▲ 65	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	920 ▲ 129	▼ -	
	輸出	"	93 ▲ 17	▲ -	
	在庫	11/23	1,482 ▼ -73	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/19 ~ 11/25	59.0 ▲ 0.0	▼ -4.0	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/19 ~ 11/25	54.9 ▼ -0.6	▼ -0.1
		(TOCOM/中部)	11/25	57.0 ▼ -0.5	▼ -5.0
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/25	147.1 ▲ 0.2	▼ -6.8	

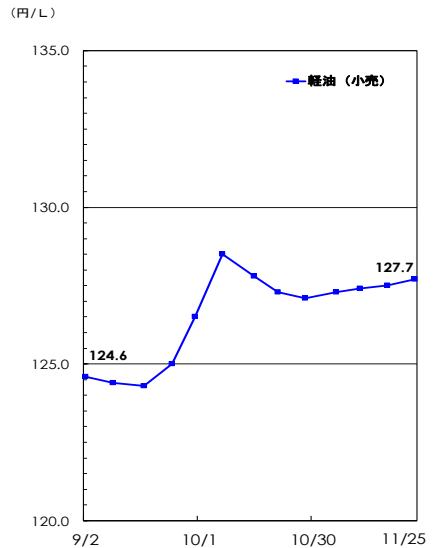
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

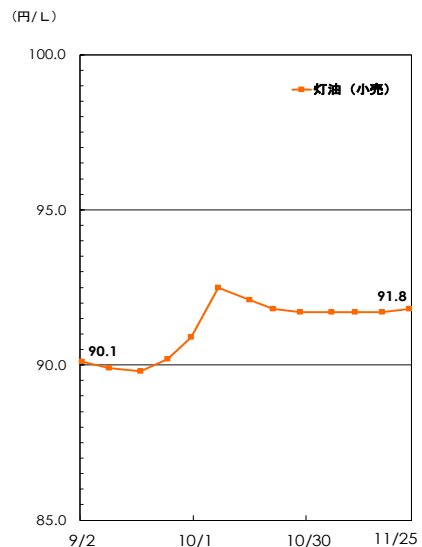
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/17 ~ 11/23	876 ▲ 64	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	655 ▲ 37	▲ -	
	輸出	"	175 ▲ 96	▲ -	
	在庫	11/23	1,563 ▲ 47	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/19 ~ 11/25	62.1 ▲ 0.4	▼ -4.3	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/19 ~ 11/25	63.7 ▲ 0.2	▼ -2.9
		(TOCOM/中部)	11/25	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/25	127.7 ▲ 0.2	▼ -5.8	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	11/17 ~ 11/23	315 ▲ 2	▼ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	279 ▼ -37	▼ -	
	輸出	"	3 ▼ -40	▼ -	
	在庫	11/23	2,836 ▲ 33	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	11/19 ~ 11/25	61.6 ▲ 0.2	▼ -3.5	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	11/19 ~ 11/25	59.3 ▼ -0.4	▼ -3.2
		(TOCOM/中部)	11/25	60.2 ▼ -2.1	▼ -4.8
	小売 [週動向] (資工庁公表)	11/25	91.8 ▲ 0.1	▼ -5.0	



■ 関連情報

1 海外/原油

11月27日のNYMEX市場WTI原油は、同日発表の米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比160万バレル増と市場予測(同42万バレル減)に反し積み増し、ガソリンも同510万バレル増と大幅な積み増しとなったことから、3営業日ぶりに反落した。ただ、ペーカーヒューズ社発表の米国稼働石油掘削機は668基と前週比3基減と6週連続で減少したことが、下値を支えた。1月限の終値は前日比0.30ドル安の58.11ドル、2月限の終値は同0.27ドル安の58.05ドル。

EIAによると、11月25日時点のガソリンの小売価格は、前

週比1.3セント値下がりの1ガロン2.579ドル(74.7円/ℓ)、ディーゼルは同0.8セント値下がりの3.066ドル(88.8円/ℓ)となった。ガソリンは2週連続の値下がり、ディーゼルは3週ぶりの値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年11月17日～11月23日に休止したトッパー能力は14.5万バレル/日で、前週に対して8.0万バレル/日減少した(全処理能力は351.9万バレル/日)。

原油処理量は335.4万klと、前週に比べ0.4万kl増加。前年に対しては29.5万klの減少。トッパー稼働率は85.7%と前週に対して0.2ポイントの増加、前年に対しては7.5ポイントの減少となった。

生産は前週に比べてジェットが減産となり、その他の油種で増産となった。ガソリン/7.4%増、ジェット/10.8%減、灯油/0.7%増、軽油/7.9%増、A重油/28.5%増、C重油/14.6%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比±0.0万kl)。軽油の輸出は17.5万kl(前週比9.6万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではジェット、灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。前年比ではガソリン、灯油が減少となり、その他の油種で増加となった。ガソリンの出荷は92.0万 kl(対前週16.3%増)と2週振りが増加となり、14週連続で100万klを下回った。ジェット6.6万kl(対前週66.8%減)、灯油27.9万kl(対前週11.8%減)、軽油65.5万kl(対前週6.0%増)、A重油18.4万kl(対前週4.7%増)、C重油

18.0万kl(対前週30.5%増)。

(単位:千KL)

	今週 (11/17 ~ 11/23)	前週 (11/10 ~ 11/16)	前週比	
ガソリン	920	791	▲ 129	(16%)
ジェット燃料	66	199	▼ -133	(-67%)
灯油	279	316	▼ -37	(-12%)
軽油	655	618	▲ 37	(6%)
A重油	184	176	▲ 8	(5%)
C重油	180	138	▲ 42	(30%)
合計	2,284	2,238	▲ 46	(2%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

11月23日時点の在庫は、ガソリン、A重油で取り崩しとなり、その他の油種で積み増しとなった。前年に対しては、全ての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは148.2万kl、前週差7.3万kl減。前年に対しては31.1万kl少ない。

ジェットは94.2万kl、前週差7.1万kl増。前年に対しては10.2万kl少ない。

灯油は283.6万kl、前週差3.3万kl増。前年に対しては4.5万kl少ない。

軽油は156.3万kl、前週差4.7万kl増。前年に対しては18.1万kl少ない。

A重油は73.4万kl、前週差1.3万kl減。前年に対しては13.2万kl少ない。

C重油は207.9万kl、前週差6.7万kl増。前年に対しては2.0万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (11/23)	前週 (11/16)	前週比	
ガソリン	1,482	1,555	▼ -73	(-5%)
ジェット燃料	942	871	▲ 71	(8%)
灯油	2,836	2,803	▲ 33	(1%)
軽油	1,563	1,516	▲ 47	(3%)
A重油	734	747	▼ -13	(-2%)
C重油	2,079	2,012	▲ 67	(3%)
合計	9,636	9,504	▲ 132	(1.4%)

### 3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

11月19日～25日の原油価格は、前週比で値上がりし、為替レートの円高がこれをやや相殺したが、原油コストはわずかに値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、11月19日～25日の間、ガソリン112円台でほぼ横ばい、軽油61～62円台でわずかに値上がり、灯油61円台でわずかに値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン114円台で値上がり、軽油64円台でわずかに値上がり、灯油57～59円台で大きく値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン107～109円台で出入り後値上がり、軽油63円台でわずかに値上がり、灯油58～60円台で大きく値上がりして推移した。

次週の元売卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、全社据え置きとなった。

### 3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

11月19日～25日の製品スポット市況は、11月12日～18日平均と比べ、先物のガソリンと灯油の値下がり、陸上のガソリンの横ばいを除いて、他の油種・取引で値上がりした。

直近の陸上スポット価格(11/19～11/25、千葉・川崎・中京・阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは横ばい、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.4円の値上がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.3円の値上がり、灯油は0.2円の値上がり、軽油は0.5円の値上がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.6円の値下がり、灯油は0.4円の値下がり、軽油は0.2円の値上がりだった。

12月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。

(RIM) (単位: 円/%)

陸上ローリー4地区平均	今週 (11/19 ~ 11/25)	前週 (11/12 ~ 11/18)	前週比
レギュラー	59.0	59.0	➡ 0.0
灯油	61.6	61.4	▲ 0.2
軽油	62.1	61.7	▲ 0.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

期近物/終値 [平均]	今週 (11/19 ~ 11/25)	前週 (11/12 ~ 11/18)	前週比
レギュラー	54.9	55.5	▼ -0.6
灯油	59.3	59.7	▼ -0.4
軽油	63.7	63.5	▲ 0.2

※上記価格は税抜き価格

参考値 (11/19～11/25実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	➡ 0.0	▼ -0.6	▼ -0.3
灯油	▲ 0.2	▼ -0.4	▼ -0.1
軽油	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.3
A重油	▲ 0.4		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

### 4 国内/製品小売価格

11月25日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比0.2円高の147.1円、軽油は同0.2円高の127.7円、灯油は18%ベースで同2円高の1,652円(1%ベースでは同0.1円高の91.8円)。ガソリン・軽油は、4週連続の値上がりで、灯油は7週ぶりの値上がりだった。ガソリンは、都道府県別には、値上がり29都府県、横ばいが10道県、値下がりが8府県となった。全国最安値は徳島県の140.6円(前週比0.1円安)、その次に安いのは、香川県の142.0円(同0.3円安)、最高値は長崎県の157.3円(同0.2円高)。最も値上がりしたのは1.6円高の愛知県(145.2円)、横ばいは宮崎県等10道県、最も値下

がりしたのは0.3円安の熊本県(148.3円)と香川県(142.0円)だった。

先週の原油コストは値上がりし、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社0.5円の値上げとなった。今週は、原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをわずかに相殺したが、原油コストはわずかに値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、全社据え置きとなった。次週(12月2日)のガソリン・灯油の小売価格は、転嫁未達分があることから、小幅な値上がりが見込まれる。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (11/25)	前週 (11/18)	前週比	直近高値
レギュラー	147.1	146.9	▲ 0.2	08/8/4 185.1
灯油	91.8	91.7	▲ 0.1	08/8/11 132.1
軽油	127.7	127.5	▲ 0.2	08/8/4 167.4

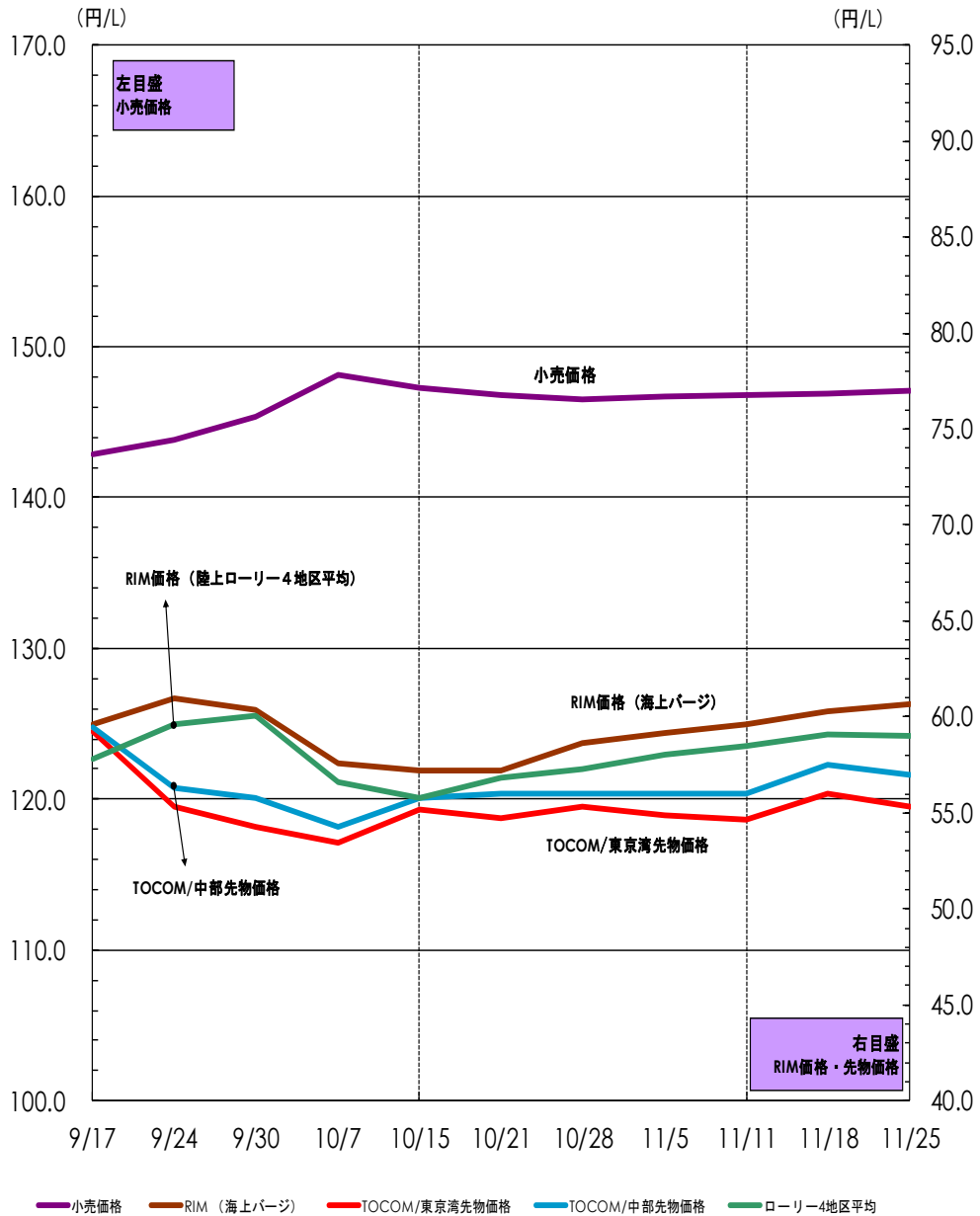
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

# ガソリン価格推移

(2019/9/17 ~ 2019/11/25)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格  
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

## ■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。  
次回(2019第34号)の公表は、12/6(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成31年3月末現在)は、7月31日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

### 本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

### 「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

### 本レポート掲載データの出所について

#### ①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

#### ②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

#### ③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

#### ④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

#### ⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

#### ⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。